卒業証書を受け取る卒業生＝南あわじ市広田

コロナ禍を乗り越え卒業式

平成淡路看護専門学校 35人が医療現場へ

南あわじ

平成淡路看護専門学校（南あわじ市広田広田）で1日、7期生35人の卒業式があった。4月からは、淡路島をはじめ県内外の病院で看護師として働く卒業生たち。恩師や家族が見守る中、3年間の学びを振り返り決意を新たにした。

2021年度に入学した7期生は、新型コロナウイルスが流行する中で学生生活を始めた。当初はオンラインでの授業が主流。徐々に対面で授業を受けられるようになり、半年間の実習にも取り組めた。

式では、北河宏之学校長が卒業証書を授与し「新型コロナウイルス禍で医療従事者が苦労していることを知りながらも、看護の道を志してくれた。これからも毎日学びを得てほしい」とエールを送った。

答辞は中野舞さん(35)が読み上げた。実習で患者と会話を重ねた経験を「個別性に応じた看護とは何か、深く考えるようになった」と振り返った。春からは、東浦平成病院（淡路市久留麻）に就職するという。

卒業後は、神戸市の西神戸医療センターで働くことが決まっている増見優月さん(21)＝洲本市＝は「患者さんの気持ちに寄り添った看護をしたい」と誓った。

（劉　楓音）